



<会社概要>

- 事業所代表者 出本 政徳 (常務執行役員 事業所長)
- 本社所在地 東京都港区芝五丁目36番7号
- 事業所所在地 熊本県玉名郡長洲町大字有明1番地
- 創業年月日 昭和48年4月
- 資本金 250億円
- 従業員数 1,120人 (有明事業所)
- 事業内容 30万トンクラスの超大型タンカー、鉄鉱石運搬船、自動車運搬船を中心とした大型商船の建造

<会社の紹介>

昭和48年4月に日立造船有明工場(船舶部門)として操業をスタートし、平成14年にユニバーサル造船、その後、平成25年にジャパン マリンユナイテッドとなり、今年で43年目を迎えました。

有明事業所は、当社最大でかつ最新鋭の工場です。総面積107万平方メートルの敷地には、長さ620mと420mのドックや700トンと1200トンの揚重能力をもつゴライアスクレーンを有し、諸施設とともに優れた生産効率を実現する工場レイアウトのもとで、各種船舶や海洋構造物を建造し、世界の国々に送り出しています。

<主要製品・取り組み>

○30万トン積ダブルハルVLCC (タンカー) / G302T 写真①

この1隻で運ばれる原油の量は、約30万キロリットル。日本で消費される石油の約半日分に相当します。日本に運ばれる原油の多くは、サウジアラビア、アラブ首長国連邦などのペルシャ湾岸諸国などで積み込まれ、(往復)約40日かけて輸送されます。その後、日本国内の製油所に荷揚げされ、ガソリンや軽油などに製品化された後、皆さんの生活の中で使用されています。

○20万トン積ばら積運搬船 / G209BC 写真②

有明事業所では、30万トン、20万トンなどの鉄石や石炭を運ぶ大型船を中心に建造しています。石炭は主にオーストラリア、インドネシア、鉄鉱石は同じくオーストラリアやブラジルなどから日本に運ばれます。

○PCTC (Pure Car & Truck Carrier) / 自動車運搬船 写真③

従来よりも大幅な積載車両数の増加と低燃費化を両立し、また、最適運航支援システムにより、運航面からもサポートすることが可能な次世代型の自動車運搬船です。2016年2月引渡を予定し、川崎汽船(船主)様の「DRIVE GREEN PROJECT」の一環として、今後、規制が厳格化される船舶から排出される温室効果ガスGHGおよび窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)の大気汚染物質の削減に率先して取り組み、先進の省エネ技術を採用しています。



▲30万トン積ダブルハルVLCC (タンカー) 写真①



▲20万トン積ばら積運搬船 写真②



▲自動車運搬船 (完成予想図) 写真③